【令和2年度　重点プロジェクト事業成果報告】

Sports Coaching Competency Test (SCCOT)の普及及び運用

金高宏文，中垣内真樹，国重　徹，吉重美紀，和田智仁，中本浩揮，有馬正人，吉原大智（鹿屋体育大学）

Sports Coaching Competency Test（SCCOT）とは

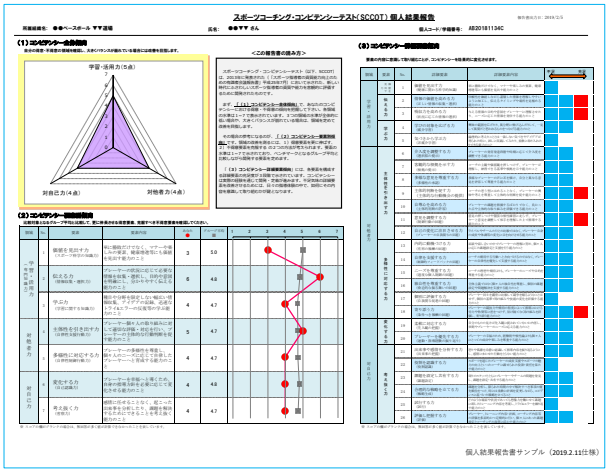
- 本テストは，日本のスポーツ界が目指している「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するテストです【注】.
- 体育・スポーツに関連する教育機関や指導者養成団体では，多様で複雑なコーチング活動の中で状況に対応しながら，適切な行動・判断を行える資質・能力の育成に力を注いでいます.
- 一方で，コーチングの資質・能力の変化を把握することや，育成プログラムの改善に役立つ情報を得るための測定・評価方法については，十分に整備されていないため，本テストを鹿屋体育大学が2017年度から開発に着手し，2018年度に完成しました.
- なお、本テストは大学教育再生戦略推進経費・大学教育再生加速プログラム（AP事業）の支援を受けて開発したものです.

- 出題される問題は以下のような特徴を持っています。

従来のテストの課題を解決するために，本テストでは下の例にあるように，一見してどちらが正解か分からないような，双方に意味のある設問を提示し，個人の判断に基づいて選択させる出題方式を取ることとした。これによって，回答時における反応歪曲等の課題の軽減を図った。

連番	A	Aにあてはまる	ややAにあてはまる	ややBにあてはまる	Bにあてはまる	B
1	スポーツを通じて，創意工夫して身体技術を会得する楽しさを学ぶことができる	1	2	3	4	スポーツを通じて，厳しいトレーニングを積み重ね，達成感や粘り強さを学ぶことができる
2	スポーツは，競い合い，勝利することが重要だ	1	2	3	4	スポーツは，勝ち負けよりも，楽しむことが重要だ
3	何かを身につける際には，興味の範囲をできるだけ広げ，多くの学びの中から気づきを得る	1	2	3	4	何かを身につける際には，学びの対象を明確にし，関連する書籍や研修を慎重に取捨選択する
4	たとえ試合前でも，全ての練習をプレーヤーの主体性に任せる	1	2	3	4	試合前でも，基本的にはプレーヤーに練習メニューを組み立てさせるが，必要と思われるポイントだけは伝える
5	プレーヤーと共に到達目標を明確にし，その道筋を話し合う	1	2	3	4	プレーヤーの特性を把握し，到達目標を提示し納得させる
6	「今日は個人で技術的な練習をしたい」というプレーヤーには，チーム全体への貢献意識が低すぎると注意する	1	2	3	4	「今日は個人で技術的な練習をしたい」というプレーヤーには，目的さえ明確なら自由に行動させる
7	過去の経験に縛って同じ指導を続けることは，指導法の退化に等しい	1	2	3	4	プレーヤーが勝手に流行のトレーニング情報を収集することはできれば避けたい
8	方向性が見えれば，話の途中でも論点を整理して自分の意見を言う	1	2	3	4	プレーヤーの意見を十分聞いてから，一緒に考えるようにする

- テスト結果の「個人結果報告書」の例（2021年度よりレイアウトを一部変更）



令和2年度の取組み

【事業計画】

- 令和2年度は、開発した「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するテスト（Sports Coaching Competency Test ：SCCOT）を用いて，他の体育・スポーツ系大学の学生をはじめ，幅広い指導者へテストを普及及び運用（有料実施も含む）することを目指した.
- また，本学学生の評価規準となる基礎データの収集を行うことを目的とした．具体的には，体育・スポーツ系大学，中学校・高校運動部活指導者，スポーツ少年団指導者，競技団体や大学運動部活動（UNIVAS）の指導者を対象として実施する．収集したデータを分析することにより，本学学生の「プレイヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」のレベルを評価できる規準を設定する.
- SCCOTの実施大学等の連携協議会等を行い，大学間でのさらなる普及及び運用を検討する.

【事業実績】

- コロナ禍の影響により，大学に集合してのテスト実施が難しいこともあり，紙版でのテスト実施を断念し，急遽，Web版SCCOT（試行版）への完全移行を進めた.

- また，これまで外部委託していたテストの採点も学内で行えるように運用を変更した．これにより，採点作業の時間や経費を大幅に削減することが可能となった.
- その結果，本学及び山梨学院大学の学生において，Web上でのテスト実施及び結果報告（PDF送付）が可能となった.
- さらに，事業化を推進するための商標の登録作業（右図）や共同著作者であるリアセック社とのロイヤリティーの交渉も概ね進んだ.

SPORTS COACHING COMPETENCY TEST
SCCOT
［2021/9/16　特許庁に登録される］

- 同時に，有料化（@500円）に関する学内の手続きの確認・整備を行った.
- 一方，普及やデータの集積に関しては，思うように進まず，本学と山梨学院大学の実施に留まった．データの蓄積数は，4,000人を超えた.
- なお，年度末に日本スポーツ協会との打合せにより，次年度のコーチデベロッパー講習会での活用が検討された.
- 2020年度以降のSCCOTの事業化等のスケジュールを設定した.

2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
Web テストプログラム完成 →	SCCOT 試験運用 →	☆ 事業化	
商標 SCCOT 出願 →	商標 SCCOT 登録 →		
リアセック社との著作権持ち分調整 →	著作権利用契約締結 →	普及活動 →	

今後の取組み

- 2022年度の完全事業化（有料化）に向け，Web版SCCOTの運用環境の整備（結果報告書の改訂，マイページ化等）を図る.
- Web版SCCOTの有料で実施（事業化）する.
- コロナ禍で普及活動は難しいが，他の体育・スポーツ系大学の学生をはじめ，幅広い指導者へテストを普及活動を行う.
- 学生の評価規準となる基礎データの収集・分析を行う.

【注】本テストの開発では，株式会社リアセックの協力を得ております．また，本テストの著作は，国立大学法人鹿屋体育大学が所有しております．無断で再利用することは法律で禁じられています.